

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 憩いの園)

事業所番号	0672200177		
法人名	社会福祉法人悠愛会		
事業所名	グループホームメルヘン		
所在地	東村山郡山辺町大字大寺1132番5号		
自己評価作成日	平成 30年 7月 31日	開設年月日	平成 12年 4月 1日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「ゆっくり・楽しく・一緒に」の理念のもと、残存機能を有効に活用し、その人らしい生活が送れるよう努めています。施設東側に畑があり、様々な野菜を育てており、心を込めて育てた野菜を食事の際に提供し、収穫の喜びを皆様で分かち合っています。コミュニケーションが苦手な方でも、スタッフが寄り添い、笑顔で傾聴し安心感のある生活をサポートしております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.jp/06/index.php>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	平成 30年 9月 12日	評価結果決定日	平成 30年 10月 4日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

田園地帯にカラフルな建物が並ぶメルヘンの色は暗くなりがちな日々を明るい色で元気に暮らしてもらいたいという開設者の思いが込められています。利用者は6ユニットそれぞれの持つ特徴ある暮らしの中で、出来る事を手伝い、互いを認め合いながら生活しています。職員は常に初心にかえり利用者一人ひとりに合わせた介助を行い、何よりも食事に重きを置き、手作りで準備から後片付けまで一緒にして食しています。近い将来予想される看取りに関する社会からの要求を踏まえ、充実した医療連携や経験で得たスキルを活かし、利用者や家族の要望に応じて行くよう学びを深めている事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
55	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	62	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
56	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,37)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	63	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
57	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
58	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:35,36)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:48)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:29,30)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
51	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します

自 己	外 部	項 目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所独自の理念をつくり、ユニットの見えるところに掲げている。職員は業務の中で理念を意識しながらケアが出来るように努めている。	法人理念の「ゲストは恋人」と「ゆっくり・楽しく・一緒に」の事業所理念を見える所に掲示している。各ユニットの目標もふまえて、常に意識を高めてケアして行けるよう心掛け実践している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	買い物は地域のスーパー・ドラッグストア・ホームセンター等を利用している。大寺地区全体の防災訓練にも参加し、交流を図れるように努めている。	地域情報は運営推進会議出席者等から得ている。公民館行事のさくら祭りや防災訓練等に参加しており、買い物に行った先々で親しく声を掛けてもらい、地区の人々の優しさを感じている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域のスーパーへの買い物や、地域の催しごとの参加を通じて理解を得るように努めている。			
4	(3)	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の開催を行っている。町役場職員、大寺地区の公民館長・民生委員・家族の方々に参加していただいている。定期的に各ユニットを回り、それぞれのユニットの雰囲気を感じてもらい、活動における助言をいただいている。	会議には山辺町・地区の方々・家族等の出席を得て、報告事項、状況説明の他、出席者から情報をもらっている。各ユニット輪番で会場になり、一年で6ユニットの雰囲気を感じてもらい、地域の福祉サービスの相談窓口になれるように意義のある話し合いの場として捉えている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員の受け入れや、運営推進会議等に参加していただき、情報の共有を行っている。町からも行政等の報告をもらっている。	町担当者から運営推進会議に出席してもらい情報を共有している。町社会福祉協議会や地域包括支援センターからも相談を受け、互いに話し合いを持ちながら双方向的関係を築いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	施設内での学習会を通じて、身体拘束について学習を行っている。入居者の状態に合わせて離床センサー等を活用し、拘束をしないケアを行っている。	身体拘束についての学習会を設けている他、身体拘束廃止委員会で三カ月に1回振り返りを行い、利用者の状態によって離床センサーを使用、タンパリンで合図をしてもらう等、拘束しないケアをしている。それに伴うリスクについて、入居時家族等に理解を得て共同生活に入っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止についての学習会を開催し、職員全員が同じ意識でケアできるよう話し合い、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	制度についての知識を増やせるよう、学習会を通じて学んでいきたい。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際に、利用者やご家族と十分な話し合いを行い、疑問点はその都度確認し理解を得られるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	相談の窓口を設けている。家族会などで集まった際には意見や要望を聞くようにしている。また、苦情があった際には、管理者・職員でしっかり話し合いを行い、改善に努めている。	第三者委員会を設けて苦情や相談を受けている。家族会もあり、総会や行事を通して信頼関係を築いている。出された意見や要望はユニットの主任会議で話し合い、改善策を検討しサービスに反映させている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	各ユニットのスタッフミーティングや業務中に出た意見や提案を主任会議で話し合い、繁栄されるよう努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	目標管理シートを有効的に活用し、一人ひとりが向上心を持って働けるよう努めている。		
13	(7)	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月1回の学習会や、外部の研修に参加し、知識や技術向上を目指している。	法人内研修については、1年間の計画に基づき、毎月学習会を行っている。委員会を中心にユニットで責任を持ち、人前で話をする事で力量アップに繋げている。外部研修は経験に見合った人に参加してもらい、報告書を回覧して学びを共有している。	
14	(8)	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	外部の研修にはできる限り参加している。他施設との交流を図り、ケアの質の向上に取り組んでいきたい。	県グループホーム協議会に加入し、会議には管理者が出席している。東北大会の事例発表では、職員の学び・気付きなど、意識向上にも繋がっている。交換実習の受け入れも行っている。	

II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	傾聴し共感する姿勢でコミュニケーションをとり、信頼関係を築けるよう努めている。また、家族から情報を得ることにより本人が安心して生活できるよう支援に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居に際して、本人同様に家族に対しても、話を伺う機会を設け、本人が安心して生活ができるように一緒に関わられる関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者と家族の要望や状態を把握し、本人の状態に応じて、適切なサービスを提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一人ひとりに合わせた生活リズムを大切にし、利用者が出来ることは行っていたり、出来ないことはサポートしている。家庭的な環境、雰囲気作りを行っている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との外出機会や、敬老会等のイベントへの参加など家族と一緒に楽しむことが出来るよう支援している。面会時には状態報告を行い、不安があれば話し合いを行い解決していくよう努めている。		
20		○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の協力も得ながら、馴染みの関係が途切れないように努めている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲の良い利用者同士だけではなく、新しい利用者も自然と溶け込める席の配置や環境作りを工夫して行っている。また、複数での外出によってより良い関係が生まれるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービスの利用が終了しても、これまでの関係性を大切にし、必要に応じて相談にのるなど継続的な付き合いが持てるよう心掛けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ケアプランを作成する際、気持ちシートを記入することで、思いや暮らし方の希望など把握するように努めている。困難な方の場合、表情や態度などから思いを受け止める努力をしている。	利用者がホッとする時の話しぶりから思いを引き出すなど、家族との会話からの気付きは、介護記録や連絡ノートに書き共有を図り、統一したケアに結び付けている。プライベートな事は皆の居る所では話さず、個別でリラックスして話せるよう気配りしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、家族に対して利用者本人の生活歴を聞き取りし、入居後の生活に活かしている。入居後も回想法などを通じて情報を得たり、興味を持つ話題を提供し、これまでの暮らしの様子などを聞く機会を作っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	状態観察や会話を通じて、その人の状態を把握し、病気の早期発見や認知症の進行状況の把握にも努めている。また、毎日の花笠体操・歩行練習・立ち上がり訓練など筋力保持のため、楽しみながら行っている。			
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の意向も取り入れつつ、利用者本位の介護計画になるように作成している。その他、必要に応じて家族に情報提供を行えるよう努めている。	介護計画作成時は、居室担当者が個人台帳でプランをチェックした後に、担当者会議で検討している。利用者の「～したい」という要望を頭に置いて、本人本位のプランを作る事を大切に考えている。家族等には電話で伝え了解を得ている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	認知症の状況や日々の生活の中での言動など。気が付いたことを介護記録に記入している。また、報告・連絡・相談を行い、職員間での情報共有に努め介護計画の見直しに活かしている。			
28		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地元の民生委員や、消防団の方々に協力を得ている。行事などには学生やボランティアの方々からも参加していただいている。			
29	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	敷地内にクリニックがあり、早期受診に努めている。受診後は、家族へ報告を行っている。要望があれば、他医療機関で受診していただいている。	入居時にほとんどの方が併設されているクリニックにかかりつけ医を変更し、体調変化への迅速な対応や家族の通院時負担軽減を図っている。また歯科医師の往診や看護師の訪問もあり医療連携を整え、利用者や家族の安心に繋がっている。		
30		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と連携し、支援を受けている。週1回の訪問で、入居者の健康状態の把握に努めている。急変の際にはすぐに駆け付け対応している。また、同じ敷地内に併設しているクリニックメルヘンの医師と看護師との連携も図っている。			

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
31		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は病院関係者や家族との連絡を密にとり、情報交換や相談を行うことで利用者の状態把握に努めている。また、早期退院に向けての取り組みや退院後のケアについても話し合いを行っている。			
32	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期については、入居時に家族へ方針を説明し意見や要望を聞き取りしている。重度の利用者については早期から医師や家族との話し合いの機会を持ち、今後の変化に備えて検討し、チームで支援に取り組んでいる。	契約時に「看取り介護の指針」の説明をし、状況の変化に伴い話し合いを重ね意向を確認している。安らかに人生の最期を迎えられるよう実践を交えた学習を繰り返し、今年度看取りを行い家族から感謝され職員の自信にもなっている。		
33		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的な学習会にて実践形式の学習に取り組んでいる。心肺蘇生法とAEDの使い方は赤十字の講師を招いて学んでいる。また、看護師より酸素などの器具を使用する場合の使い方について学び、迅速に対応できるよう努めている。			
34	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	安全委員会を中心に定期的に招集訓練や避難誘導訓練を行っている。各ユニットごと、防災袋と情報カードをまとめてあり、防災に対する意識を高めている。	地区消防団の参加を得て年2回の総合訓練や安全委員会を中心に招集訓練などを行い、誘導訓練では災害の種類や発生時間、利用者の状況など様々な想定で実施している。避難後の生活も考慮し、個人情報カード整備や土鍋炊飯訓練なども行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
35	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	各職員が人格を尊重することを心掛け、プライバシーを損ねない言葉掛けを意識して対応している。プライバシーについては学習会にて学んでいる。	普段から指示的な声がけにならないように配慮し、利用者の今までの人生を理解し敬い支援している。料理やお茶出しなど日課になるように一人ひとりに合った役割を担ってもらい、生きがいのある生活となっている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
36		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の思いや希望を話しやすい雰囲気作り、入浴等の1対1になる場面での傾聴に努めている。利用者が自己決定出来るよう選択しを提示したり、利用者本人の普段の様子や希望を書き表した気持ちシートを活用している。			
37		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの思いや体調、その人のペースを大切にし、利用者それぞれの希望に応じた支援ができるよう職員間でもコミュニケーションを図り、希望に沿えるようにしている。			
38		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	声掛けをし、身だしなみに気をつけ、自分の好みの服や小物等、希望を取り入れている。外出やイベント時など化粧をしておしゃれを楽しんでいる。			
39	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者の能力を活かし、職員と共に調理を行い、食器の後片付けも行っている。季節に応じた献立を考えたり、利用者の希望の献立を調理し、職員も一緒に食べている。	利用者と職員が協力して毎食手作りで提供し、畑で採れた野菜も登場するなど喜ばれている。誕生日当日には希望メニューでお祝いをしたり、時には外食や出前も利用し、職員も会話をしながらいっしょに食べ日々の楽しみとなっている。		
40		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	糖尿病の方・浮腫がある方・嚥下障害の方等、その方の状態を見極め、一人ひとりの状態に合わせてトロミをつけたり、柔らかく調理したり細かく刻むなどの対応を行っている。声掛けを行い、水分摂取をこまめに行っている。			
41		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアの準備と声掛けを行い、必要に応じて介助を行っている。義歯や口腔ケア道具の洗浄消毒を行い、衛生管理にも努めている。			
42	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、さりげない誘導や声掛けを行っている。	訴えがない場合でも時間で声がけをしてトイレでの排泄を大事にしている。誘導は出来る限り同性介助で行い、失敗時には羞恥心や不安を感じさせないようにさりげなく振る舞い、自尊心を傷つけないように気を配っている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
43		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の水分摂取や運動を行うことで、便秘の予防に努めている。また必要時は、腹部マッサージを行い、自然排便に繋げている。			
44	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	毎朝、健康状態を確認し、本人の希望を重視して一人ずつゆったりと入浴できるよう対応している。また、夜間浴も行っている。	利用者の希望に合わせいつでも入浴できるようにして、嫌がる方も楽しめるように有名温泉の暖簾を掛け入浴剤を利用するなど、温泉気分を味わってもらっている。浴室内での会話も本音を聞ける貴重な場として捉えている。		
45		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は活動的に過ごして頂けるよう支援している。眠りやすい環境作りをしている。			
46		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方された薬の注意事項・副作用等について理解し、薬の変更があった際は申し送りをしっかり行い、職員が熟知できるよう対応している。			
47		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者の個性を活かし、役割を持ちながら生活し生きがいを持っていただけるよう支援している。季節ごとのイベントや外出・外食を行い、気分転換に努めている。			
48	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	利用者の希望を叶えられるよう外出を多く取り入れている。家族の方からも協力していただき、一緒に外出する機会を支援している。	ユニット毎に桜やあじさいなどの花の名所にドライブに出かけたり、小人数でショッピングモールの軽食やおやつ、回転すしで外食などを楽しんでいる。歩行困難や乗り物酔いをする方は近隣の散歩をしたり、また全員参加の敷地内で芋煮会を行うなど、気分転換を図っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理が出来ない利用者が多いため、お金の管理は職員で行っている。本人の買い物の際は、預かっているお金から支払いをもらい、レシートとともに台帳に記入し保管している。		
50		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら友人へ手紙を書く方は、一緒に便箋や封筒を買いに行き、職員が投函している。電話は自らかけることが難しいため、職員が電話をつないで対応している。		
51	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節感を感じていただけるように花や観葉植物の鉢を置いたり、利用者が外出した時の写真を貼り、楽しんでいただけるようにしている。利用者の過ごしやすい温度・湿度管理を行っている。また、カーテンで光の調整を行い、不快を感じないようにしている。	職員の手伝いや作品作りなど1日のほとんどを食堂で過ごす方が多いため利用者同士の関係に目配りをし、所々に椅子やソファを設置し時には距離をおき一息つけるようにしている。各ユニットの入り口には次亜塩素酸を含ませたマットを置き感染症予防に努めている。	
52		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共通の場にソファを置き、利用者同士で話やすく、個別でゆっくり寛げる場所を確保している。また、廊下に椅子とソファを置き一息つける場所を設けている。		
53	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居時に、本人と家族で相談し、本人の使い慣れた家具やテレビ等を持ち込んでいただき、利用者が居心地よく過ごせるように工夫している。	フロアと畳タイプの居室があり各室にクローゼットと洗面台を備え、入り口前にはイベント時の写真を思い出せるように貼り出している。職員呼び出し用のタンバリンや離床センサー、夜間ポータブルトイレ利用などで安全に暮らせるよう心掛けている。	
54		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	廊下・トイレ・脱衣場・浴室など利用者の可動域を考え、適宜な場所に手すりを設置しており、自立した生活・事故のない生活が送れるよう工夫しながら支援している。また、移動域に物を置かないよう環境整備を心掛けている。		